

ひとめぐり

南三陸と台湾の架け橋に。台湾スタッフが観光協会に加入！

東 日本大震災以降、強い絆による交流が続く南三陸町と台湾。その台湾の桃園市出身の陳忠慶さんが6月から南三陸町観光協会の国際交流推進員として加わった。

小さいときに祖父の歌っていた演歌を聞いて日本に興味を持つようになったという陳さん。高校生のときに日本語コースに進学。「日本語は難しくテストは不合格ばかりだった」と振り返るが、日本の大学生などとの交流を通じて日本への興味は強くなり、勉強に身が入るようになった。すると、語学力はめきめきと上達。大学時代には熊本大学に1年間留学し日本各地を旅行したという。そして、2年前の夏、インターシシッププログラムとして2カ月間南三陸町に滞在し、観光協会での翻訳作業や情報発信などの業務を経験した。

「南三陸町で何よりも心に残っていることが現地の人とたくさん触れ合えたこと。町の人が皆温かくて、その優しさはインターシシップが終わったあとも忘れることはなかった」と振り返る。大学卒業後、南三陸町からオファーがあった。「言語の不安などもあり1週間は悩みましたが、日本に行って働きたい、という思いが強かった」と決断の理由を話す。「お互いの交流をより促して、台湾との架け橋になっていきたい」と意気込む。

CYUUKAI CHIN



陳 忠慶さん

「車を買ったので、行動の幅が広がりました。東北でまだ行ったことのない場所が多いので、時間があるときに旅行したいですね」と話す陳さん

7月は「社会を明るくする運動」の強調月間です

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない地域社会を築こうとする全国的な運動で、今年で68回目を迎えます。

犯罪や非行から立ち直ろうとする人たちの意欲を認め、地域の中に受け入れ、見守り、支えていくことが必要です。皆様のご理解とご協力をお願いします。

行動目標

1. 犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築くための取り組みを進めよう
2. 犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支えよう

強化月間中の活動予定

- 中学校などでの啓発活動 7月上旬
町内各関係団体の協力で、啓発グッズを配布
- 作文コンテスト作品募集 7月中旬～8月下旬
町内小中学生への呼びかけ。作品応募者に対し記念品を贈呈
- 広報活動
公共施設などへの社明運動のぼり設置、防災無線での啓発



保健福祉課社会福祉係 ☎46-2601

毎月11日は「南三陸町安全・安心の日」

～7月11日は「水難事故の防止に向けた活動を行う日」です～
夏休みを前に水難事故防止について、学校、家庭および地域で話し合いをしましょう。

毎年夏になると増えるのが水の事故です

夏は、水に接する機会が多くなります。それに伴い、海・河川・池などでの水遊びや魚捕り中の水の事故が多く発生しています。近年は、お年寄りの水難事故も増えていきます。家族や地域の皆さんからの声掛けが事故を防ぐ第一歩です。普段から、危険な場所を確認しておくことが大切です。「立ち入り禁止」看板や「あぶない！きけん！」などの注意看板がある場所には、特に近づかないようにしましょう。

子どもたちを水難事故から守るために

- 海や川には子どもたちだけで行かせないようにしましょう。
- 水辺では子どもから絶対に目を離さないようにしましょう。
- 危険な場所に子どもが近づかないように家庭で指導しましょう。
- 海や川では大人が手本を示すとともに、危険な場所で水遊びをしている子どもを見かけたら注意しましょう。

水難事故の被害を防ぐには…

- あらかじめ危険な所を確認し、近づかないよう距離を置きましょう。
- 健康管理を徹底し体調が優れない時や、疲れている時は水泳や水遊びは控えましょう。
- 急な天候の変化には十分注意し、悪天候が予想される時は海や川などに無理して出かけず、中止・延期を検討しましょう。

※自然と触れ合う時は楽しさの裏に危険が潜んでいることを忘れてはなりません。安全に対する事前の情報収集と備えを万全にして、楽しい夏を過ごしましょう。

危機管理課住民安全係 ☎46-1376